

## みんなで作った折り紙アート

教育集会所の「おおぞら学級」で



1万2千もの折り鶴からなる折り紙アート写真の子どもたちをはじめ、多くの方が制作に参加折り鶴を張り合わせて、一つの作品にする折り紙アート。教育集会所（西上坂町）では、放課後に様々な自主活動などを行う「おおぞら学級」の子どもたち（北郷里小1年～4年生で構成）を中心に、1月から折り紙アートを制作し始め、約4か月かけ

て完成しました。描いたのは、詩人・相田みつをさんの詩「根」で、約12,000羽の折り鶴が張り合わされています。この詩を選んだ理由には、「きれいな“花”を支えるのは枝であり、枝を支えるのは幹であり、幹を支えるのは“根”である。根は見えないが、木全体を支えていて、目立たないところでもコツコツとがんばることを大切にしたい」という思いがこめられています。これまで、子どもたちは、毎日のように鶴を折りに来て、学校や家であったことを話しながらコツコツと制作に励んできました。時には、中学生が教えに来たり、地域の方が家で折った折り鶴を持ってきたりするなど、多くの方が関わってできた作品です。



みんなの思いがこもったこの作品は、教育集会所の壁に飾られています。

## ぶらりわがまち

天台宗の古刹「大吉寺」(野瀬町)



野瀬町を流れる大吉寺川に沿って上流へ進むと、天台宗の古刹『寂寥山 大吉寺』があります。山門と庫裏、そして石段を上がった所の本堂からなる大吉寺は、木造聖観音立像をはじめ、仏像四軀、両界曼荼羅、源頼朝公判物、足利將軍御教書など、平安から江戸時代にかけての寺宝を多く所有されています。大吉寺の創建は古く、当寺の縁起によると、貞観7年(865年)に比叡山の安然上人が、土地の豪族 浅井治家とともに、天吉寺山の山頂付近に開

創したと伝えられています。その後、鎌倉時代に隆盛を極め、室町時代には、足利幕府の祈願寺としても栄えましたが、浅井氏と関係が深いことから、元龜3年(1572年)に織田信長の兵火により焼き払われてしまいました。こうして現在の天吉寺山の山頂付近には、本堂跡、鐘楼跡をはじめ、頼朝の供養塔、覚道上人入定窟、關伽池などを残すだけとなりましたが、かつての隆盛を偲ばせるこの寺院跡は、県の史跡に指定されています。(現在の本堂などは寺院跡を少し下った所に再建されたものです) また、毎年9月に行われる虫供養 放生会は、慶長13年(1608年)から現在までの約400年もの間、古式ゆかしく執り行われています。



本堂

大吉寺までの道のりをゆっくりと登り、杉木立の参道や川のせせらぎ、小鳥のさえずりなど、手が加えられていない自然を感じながら、語り継がれる歴史に思いをはせる…。そんなひとときを過ごしてみませんか。



## 5か国の人々が音楽パーティで交流

国際文化交流ハウスGEO(神照町)で行われたゴスペルコンサート。ボリビアやアメリカ、日本などから参加された人たちは、イングリッシュクラスに通う子どもたちの歌や、南米系外国人によるゴスペルと一緒に歌い聴きながら、交流されていました。



## 子羊の名前をメーメー

「ふくらの森・羊の広場」(内保町)で、この3月に誕生した6頭の子羊の命名式がありました。この牧場は、昨年8月に浅井町商工会が開園したもので、命名式では、一般募集で「ぼんた」や「ちゃこ」と名づけられた子羊に浅井保育園の園児が手づくりの首飾りをかけてくれました。



## 紙芝居コンクールの優秀作品決まる

一豊と千代夫婦を題材にしたオリジナルの紙芝居を募集した結果、西堀たみ子さん(加田町・写真)の作品が優秀賞に選ばれました。この日は表彰式の後、西堀さん自身による紙芝居上演がありました。優秀賞と佳作の3作品は、一豊・千代物語館(曳山博物館)で順次、上演される予定です。



このコーナーでは、市民のみなさんの活動の様子や、まちで見かけたほっとな話題をご紹介します。



## 修行の道も一歩ずつ

千日回峰行の創始者である相応和尚(そうおうしょう)の心に少しでも近づこうと五先賢の館が毎年開催する「一日回峰行(いちにちかいほうぎょう)」。今年は過去最高の100人が参加され、小谷山の急な坂や岩場を歩きながら、郷土の史跡を巡り、自然を満喫されました。



裁縫上手だった千代さん見習って

布の端切れなどを使って裁縫をしたとされる千代さん。裁縫が上手だった千代さんを見習って、布の端切れなどを使って裁縫をしたとされる千代さん。裁縫が上手だった千代さんを見習って、布の端切れなどを使って裁縫をしたとされる千代さん。